
2024 年度

環境経営レポート

2025年9月1日発行



認証登録番号：0011049

報告期間：2024 年 7 月 ～ 2025 年 6 月



～2024 年 10 月に、設立 40 年を迎えました～



株式会社 **ダイナックス都市環境研究所**
Dynax Urban Environment Research Inst., Inc.

目次

1. 組織の概要.....	1
(1)会社名称および代表者氏名.....	1
(2)会社所在地.....	1
(3)環境管理責任者・担当者.....	1
(4)事業内容.....	1
(5)事業の規模.....	1
(6)ミッション・ビジョン・バリューの設定.....	2
2. 対象範囲.....	3
(1)活動範囲:事業活動全般.....	3
(2)実施体制.....	3
3. 環境経営方針.....	4
4. 環境経営目標.....	5
(1)二酸化炭素排出量.....	5
(2)一般廃棄物排出量.....	5
(3)古紙等資源回収量.....	5
(4)環境保全等に係る事業の運営・実施.....	6
5. 環境経営目標の実績.....	7
(1)二酸化炭素排出量.....	7
(2)一般廃棄物排出量.....	8
(3)古紙等資源回収量.....	9
(4)環境保全等に係る事業の運営・実施.....	10
(5)事務用品の積極的なグリーン購入.....	11
(6)水道水使用量削減.....	11
(7)化学物質使用量削減.....	11
6. 環境経営計画・取組内容と評価、次年度の予定.....	12
(1)二酸化炭素排出(電力使用)量の抑制.....	12
(2)廃棄物排出量の削減.....	13
(3)古紙等資源回収量.....	14
(4)環境保全活動.....	14
(5)事務用品の積極的なグリーン購入.....	14
(6)防災への取り組み.....	14
(7)社内美化・グリーン化の推進.....	15
(8)環境保全に係る事業の受託・実施.....	15
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果 及び違反・訴訟等の有無.....	16
8. 代表者による全体評価と見直しの結果.....	17

1. 組織の概要

(1) 会社名称および代表者氏名

会社名称	株式会社ダイナックス都市環境研究所
代表取締役	佐久間 信一

(2) 会社所在地

〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目15番12号 GGHOUSE 5階
TEL:03-5402-5355 FAX:03-5402-5350

(3) 環境管理責任者・担当者

環境管理責任者	鈴木 敏夫
担当者	小池 哲司・小松 優美



(4) 事業内容

環境問題及び都市問題に関する調査・研究及びコンサルタント事業

(5) 事業の規模

創業	1972 年 3 月 (シンクタンク・ダイナックス設立)
従業員数	21 名
床面積	169.19 m ² (51.18 坪)
資本金	1,500 万円

（６）ミッション・ビジョン・バリューの設定

2024年10月に40周年を迎えたことで、次の10年に向け全社員でミッション・ビジョン検討会を開催し、制定しました。詳細は特設Webページをご覧ください。

https://dynax-eco.com/40th_anniversary/

ミッション

人々が安心して豊かに暮らし続けられる地域社会をともに目指す行動するシンクタンク

ビジョン

- 1 一人ひとりの価値観やあり方を大切にして、真摯に取り組む
- 2 ネットワークを活かして、挑戦し続ける
- 3 地域社会の一員としての役割を担う
- 4 心身ともに豊かで、お互いを思いやる関係を大切にする

バリュー

現場を重視する

当事者の声に耳を傾け、身近な存在として寄り添い、一緒に汗を流しながら考えます。

ネットワークを大切にする

これまで培ってきた知見や、関わってきた方々との間に築いてきたネットワークを大切にして、拡充に努めます。

探究心を持って成長する

社員一人ひとりが探求心を持って、知識と経験を積み重ねることで専門性を高め、成長し続けます。

チームワークを大切にする

関わる人たちとの円滑なコミュニケーションを心掛け、お互いを尊重し合い、協力し合える関係性を維持し続けます。

多様な働き方を尊重する

心身の健康を大切にし、多様な働き方を実現することで、幸せの実感を追求し続けられる職場を目指します。

持続可能な社会の実現を寄与する行動を選択する

持続可能な未来のために必要な知識を身につけ、環境保全に考慮した行動を選択します。

持続的な発展につながる経営を実践する

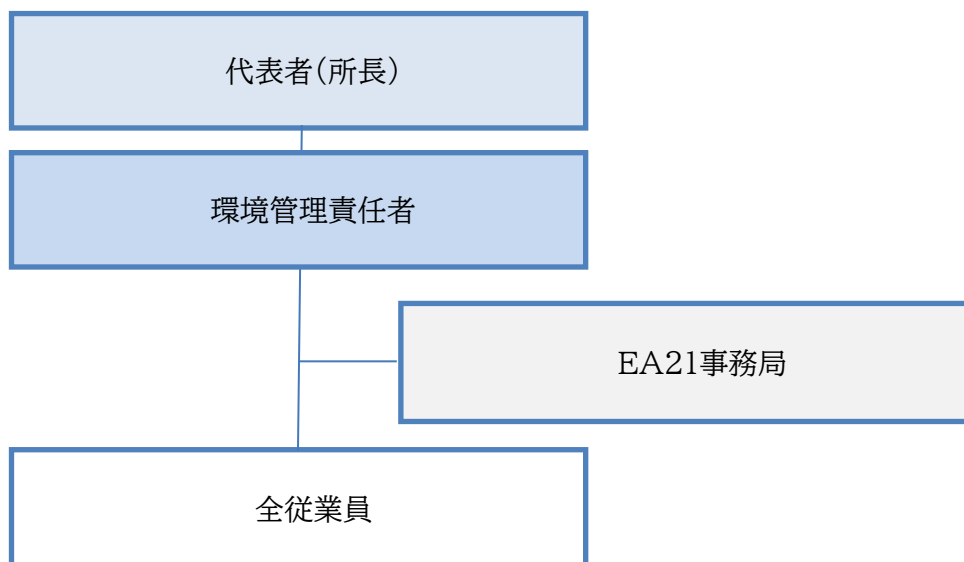
経済性・社会性・環境性の3つの視点から、経営を考え、様々な仕組みを活用しながら実践し、社会的な信頼を高めていきます。

2. 対象範囲

(1) 活動範囲：事業活動全般

主な対象地域：本社（東京都港区西新橋三丁目15番12号 GGHOUSE 5階）

(2) 実施体制



	役割・責任・権限
代表者 (所長)	<ul style="list-style-type: none">・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・経営における課題とチャンスの明確化・環境経営システムの実施及び管理に必要な人(時間、技能、知識)、もの(設備、インフラ)、資金(設備投資、教育投資)、情報(顧客ニーズ、技術情報)を用意・環境管理責任者を任命・代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムを構築・運用する(代表者からEA21の権限を委任)・実施体制の構築(組織図及び役割・責任・権限)・環境目標・環境経営活動実施計画書/実績表の作成・教育・訓練の実施を指示・環境上の緊急事態への準備・対応・環境経営レポート作成・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告
EA21 事務局 (推進委員会)	<ul style="list-style-type: none">・EA21の推進(環境管理責任者の指示を受けて)・環境への負荷及び取組チェック実施・環境関連法規等の取りまとめ表作成と遵守評価実施・環境関連文書・記録の管理
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・環境方針を理解し、環境への取り組みの重要性を自覚・EA21で決められた各自の役割を実施

作成日：2024年11月1日

3. 環境経営方針



環境経営方針

【企業理念】

- ① 持続可能な社会と安全で安心して暮らせるコミュニティづくりをめざします。
- ② 参加と協働を理念とした社会のコーディネーターをめざします。
- ③ 行動するシンクタンク—DO TANK—をめざします。
- ④ ネットワーク型の開かれたシンクタンクをめざします。

【環境理念】

地域住民との協働による循環型社会の形成やレジリエンスの向上などに寄与する事業活動を通じて、持続可能な社会づくりに貢献します。

【行動指針】

株式会社ダイナックス都市環境研究所は環境経営システムの運用にあたり、以下の方針を定め、従業員全員で継続的改善に取り組むものとします。

- ① 環境関連法規を遵守します。
- ② 電力のロスを排除し、省エネルギーに取り組めます。
- ③ 分別・リサイクルの徹底に努め、廃棄物を削減します。
- ④ 積極的にグリーン購入に取り組めます。
- ⑤ 移動にはなるべく自転車、公共交通機関を活用し、自動車の使用を控えます。
- ⑥ 環境経営レポートを公表する等、環境コミュニケーションの向上に努めます。
- ⑦ コンサルタントとして他の模範となるよう率先して環境保全活動に取り組めます。

平成27年9月1日制定
令和元年10月1日更新
令和4年9月11日更新

株式会社ダイナックス都市環境研究所
代表取締役

佐久間信一

4. 環境経営目標

事業内容を踏まえ、環境経営目標を下記のように定める。

(1) 二酸化炭素排出量

目標 2026年度まで、二酸化炭素排出量を維持（2023年度基準）

	【基準年】 2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
電力使用量削減目標率	100%	100%	100%	100%
電力使用量削減目標 (kg-CO ₂)	7,324	7,324	7,324	7,324

※使用する二酸化炭素排出係数(2023年):0.408 kg-CO₂/kWh(東京電力エナジーパートナー)

(2) 一般廃棄物排出量

目標 2026年度まで、一般廃棄物排出量を維持(2023年度基準)

	【基準年】 2023 年度	2024年度	2025年度	2026年度
一般廃棄物削減目標率	100%	100%	100%	100%
可燃ごみ目標量	152kg	152kg	152kg	152kg
不燃ごみ目標量	94kg	94kg	94kg	94kg
一般廃棄物目標量	246kg	246kg	246kg	246kg

(3) 古紙等資源回収量

目標 2026年度まで、古紙等資源回収量を維持(2023年度基準)

	【基準年】 2023 年度	2024年度	2025年度	2026年度
古紙等資源回収量削減目標	100%	100%	100%	100%
古紙等資源回収量削減目標量	1,049 kg	1,049 kg	1,049 kg	1,049 kg

(4) 環境保全等に係る事業の運営・実施

目標	2026年度まで、環境保全等に係る事業の受託・実施を維持 (2023年度基準)
----	--

	【基準年】 2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
環境保全等に係る事業の 受託・実施目標	100%	100%	100%	100%
環境保全等に係る事業の 受託・実施目標件数	30	30	30	30

5. 環境経営目標の実績

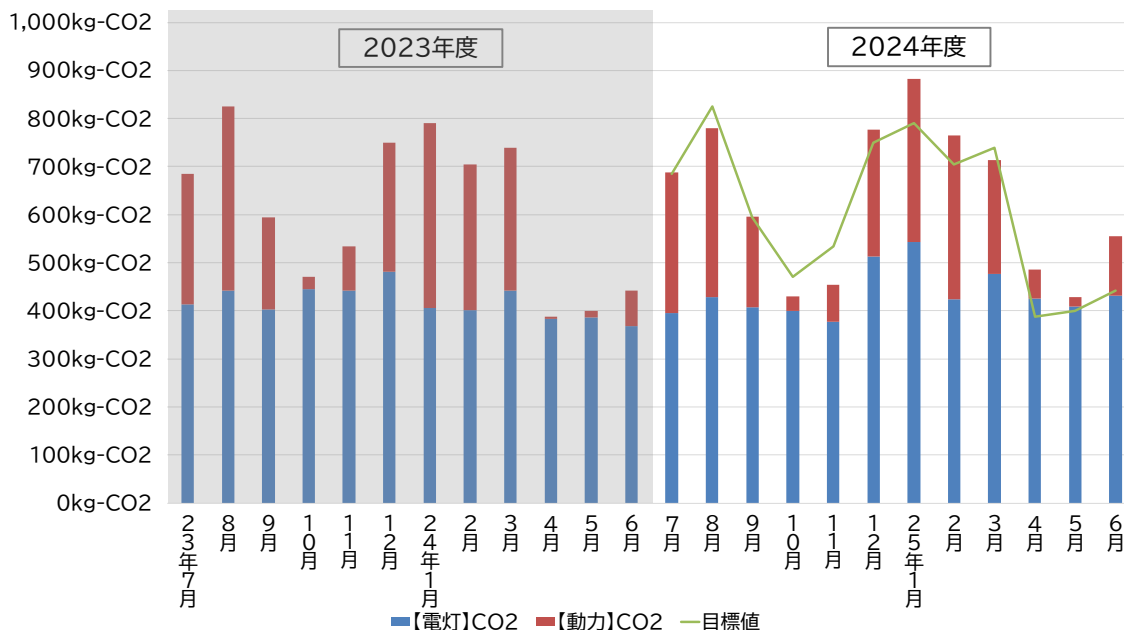
(1) 二酸化炭素排出量

2024年度実績 7555.8 kg-CO₂

※使用する二酸化炭素排出係数(2023年):0.408kg-CO₂/kWh

2023年度以降実績(月別)

2023年7月～ 二酸化炭素排出量推移(単位:kg-CO₂)



【2023年度】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
電灯	412.9	441.9	403.5	445.1	441.9	480.6	406.4	401.9	442.3	383.9	386.4	368.8	5015.5
動力	272.1	383.9	190.1	25.7	92.6	268.5	384.7	303.1	296.2	4.5	13.5	73.4	2308.5
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	685.0	825.8	593.6	470.8	534.5	749.1	791.1	705.0	738.5	388.4	399.8	442.3	7324.0

【2024年度】

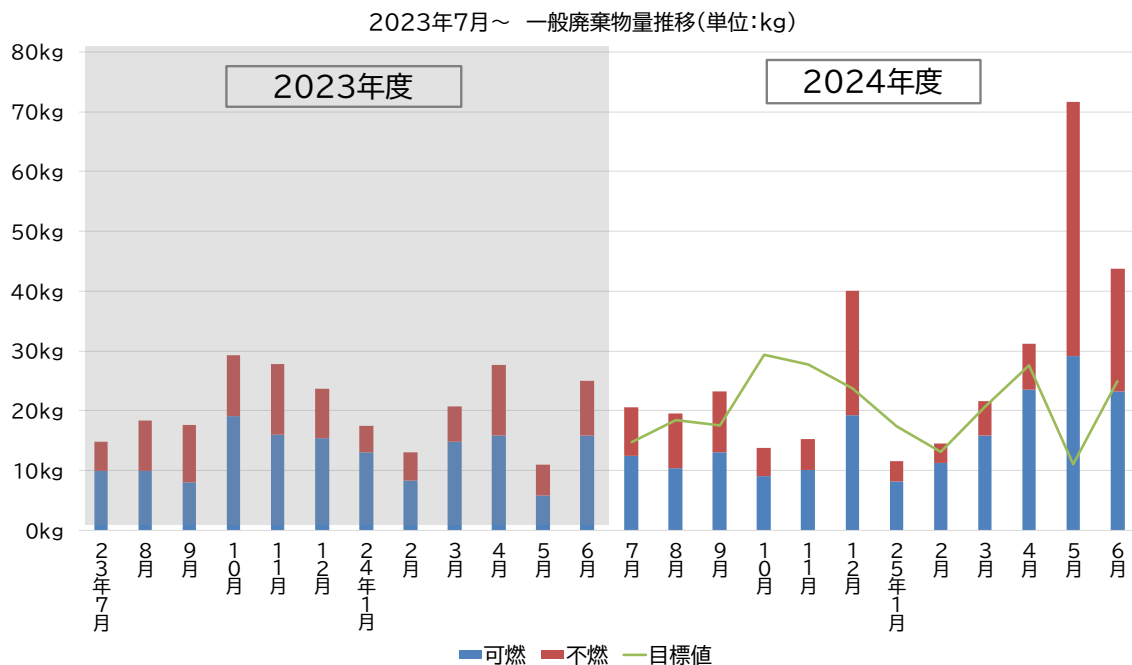
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
電灯	395.4	428.0	406.8	399.4	376.6	512.4	543.5	423.9	477.0	426.0	409.2	430.8	5228.9
動力	292.9	352.1	188.9	31.0	77.5	264.0	339.0	341.1	237.0	59.2	19.2	124.8	2326.8
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	688.3	780.1	595.7	430.4	454.1	776.4	882.5	765.0	714.0	485.1	428.4	555.7	7555.8
目標値(kg)	685.0	825.8	593.6	470.8	534.5	749.1	791.1	705.0	738.5	388.4	399.8	442.3	7324.0

(2) 一般廃棄物排出量

2024年度実績

326.6kg

2023年度以降実績(月別)



【2023年度】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
可燃(kg)	10.0	10.0	8.0	19.1	16.0	15.4	13.0	8.3	14.8	15.8	5.8	15.8	152.0
不燃(kg)	4.8	8.4	9.6	10.2	11.8	8.3	4.4	4.8	5.9	11.8	5.2	9.2	94.4
合計	14.8	18.4	17.6	29.3	27.8	23.7	17.4	13.1	20.7	27.6	11.0	25.0	246.4

【2024年度】

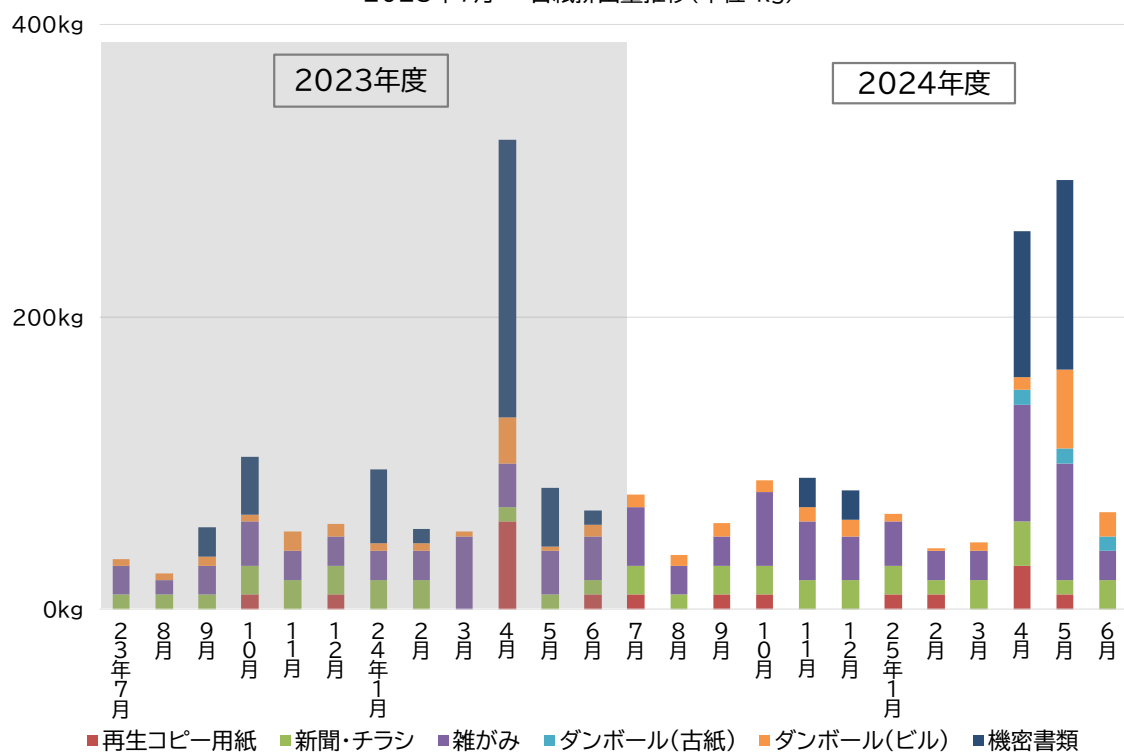
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
可燃(kg)	12.5	10.4	13.0	9.0	10.1	19.3	8.1	11.2	15.8	23.6	29.2	23.3	185.5
不燃(kg)	8.0	9.1	10.3	4.8	5.2	20.8	3.4	3.3	5.8	7.6	42.4	20.4	141.1
合計	20.5	19.5	23.3	13.8	15.3	40.1	11.5	14.5	21.6	31.2	71.6	43.7	326.6
目標値(kg)	14.8	18.4	17.6	29.3	27.8	23.7	17.4	13.1	20.7	27.6	11.0	25.0	246.4

(3) 古紙等資源回収量

2024年度実績 1240.9kg

2023年度以降実績(月別)

2023年7月～ 古紙排出量推移(単位:kg)



【2023年度】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
再生コピー(kg)	0	0	0	10	0	10	0	0	0	60	0	10	90
新聞チラシ(kg)	10	10	10	20	20	20	20	20	0	10	10	10	160
雑がみ(kg)	20	10	20	30	20	20	20	20	50	30	30	30	300
ダンボール(古紙)(kg)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ダンボール(ビル)(kg)	4.1	4.7	6.1	4.5	13.2	8.5	5.5	5.2	3.3	31.1	2.95	7.6	96.8
機密書類(kg)	0	0	20	40	0	0	50	10	0	190	40	10	360
飲料容器(kg)	3.4	2.8	10.2	8.2	2	6.1	1.5	1.2	3	1.6	1.2	1.8	43
合計	37.5	27.5	66.3	112.7	55.2	64.6	97	56.4	56.3	322.7	84.15	69.4	1049.8

【2024年度】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	累計
再生コピー(kg)	10	0	10	10	0	0	10	10	0	30	10	0	90
新聞チラシ(kg)	20	10	20	20	20	20	20	10	20	30	10	20	220
雑がみ(kg)	40	20	20	50	40	30	30	20	20	80	80	20	450
ダンボール (古紙)(kg)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	30
ダンボール (ビル)(kg)	8.6	7.1	9	8	10.1	11.3	5.4	1.9	5.8	8.6	54	16.4	146.2
機密書類(kg)	0	0	0	0	20	20	0	0	0	100	130	0	270
飲料容器(kg)	2.6	7.5	1.7	6	1	1.9	0	2.8	1	1.7	4.8	3.7	34.7
合計	81.2	44.6	60.7	94	91.1	83.2	65.4	44.7	46.8	260.3	298.8	70.1	1240.9

(4) 環境保全等に係る事業の運営・実施

2024年度実績	25件
----------	-----

2023年度以降実績

	【基準年】 2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
受託数	30件	25件	—	—
目標		30件	30件	30件

(5) 事務用品の積極的なグリーン購入

- 消耗品の中で最も消費の多い白色コピー用紙は、「古紙パルプ配合率 100%・ISO 白色度 70%」の製品を購入しており、グリーン購入率は 100%を達成している。
- 事務用品は、購入サイト記載のグリーン購入やエコマークを参照し優先して購入している。筆記具等は詰替え用を優先的に購入。購入品は「いつも買うものリスト」に登録し、誰が購入しても該当商品を選択できるようにしている。
- 事務用品以外の消耗品・物品購入は、環境負荷の少ない商品やリサイクル品・リユース商品を選んで購入するようにしている。
- 近隣のリサイクル家具店を活用し、机・椅子を購入するように心がけている。
- 洗剤等は、詰替え用を選択している。

(6) 水道水使用量削減

- 節水に努める。
- テナントビルのため数量把握は不可だが、掲示物を作成しダイナックスフロア内のキッチンスペースに掲出し、啓発を進める。



(7) 化学物質使用量削減

- これまで使用した実績はない。

6. 環境経営計画・取組内容と評価、次年度の予定

(1) 二酸化炭素排出（電力使用）量の抑制

- ・ 不在時の照明の消灯
- ・ OA 機器の省エネ設定
- ・ 空調の適温化
- ・ クールビズ、ウォームビズの徹底

	取組内容	結果と評価	次年度の予定
1	全員が、 ・ 不在時、不要なエリアの消灯を実施する。(執務室、会議室とでわけ。 ・ パソコン、モニター等のOA機器を省エネ設定する。	全員で取り組んだ。	継続して取り組む
2	事務所で、 ・ 不要時、退席時は消灯する。 ・ 空調の設定温度を守る。 ・ 退社時、節電チェック項目(空調、プリンター、社内のパソコン、シュレッダー等電化製品)を設定する。 ・ 社員は節電チェック項目の主電源を切り、節電チェック表に記入する。 ・ クールビズ、ウォームビズを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小まめに消灯した。 ・ 空調の適温化のため、サーキュレーターを活用した。 ・ 節電チェック表への記入を毎日行った。 ・ クールビズウォームビズを徹底した。 	継続して取り組む
3	電気料金請求書から使用量を集計し、毎月環境経営目標・環境経営活動計画書に記入する。	継続して取り組んだ。	継続して取り組む

(2) 廃棄物排出量の削減

- ・ 過剰包装を断る、過剰包装のものを買わない。
- ・ マイカップ等リユース品を利用する。
- ・ 缶、ビン、PET ボトルは、ビルの資源回収に出す。
- ・ 廃棄物の3R及び分別を徹底する。

	取組内容	結果と評価	次年度の 予定
1	全員が ・ 廃棄物の抑制に努める。 ・ 買い物時の過剰包装を断ったり、過剰包装のものを買わない。 ・ マイコップを利用する。 ・ イベント、セミナー等の事務局を行う場合は、リユース品を使用する。	全員で取り組んだ。	継続して 取り組む
2	事務所で発生したごみは分別し、3Rを徹底する。	古紙や飲料容器は適切に分別し、3Rに取り組んだ。	継続して 取り組む
3	事務所で以下を四半期ごとに数値化し管理する。 ・ 電力の使用量の把握 ・ ごみの発生量の把握 ・ 古紙発生量の把握	経過をグラフにし、四半期ごとに掲示した。	継続して 取り組む

- リサイクルできる紙類はオフィス町内会の古紙リサイクル回収に出しているが、古紙の発生量として廃棄物とは別に把握・記録している。
- 可燃ごみ、不燃ごみについて、日常の生活上で排出されている廃棄物なのか、事業に伴う廃棄物なのか、線引きができていない。日常で排出される廃棄物に注目するのか、事業上で無駄な廃棄物が発生していないかを確認する調査を実施する。
- 手法は、業務でもおこなっている組成調査の手法を用いて、50品目程度に分類し内訳を把握する。
- また、事務所内の一般廃棄物(可燃ごみ、不燃ごみ)の分別方法が曖昧になっている点から、基準を明確にし、朝礼等で周知する。
- 新たに社員を採用した際は、社内教育の一環としてごみの分別方法に関する情報提供を行う。

(3) 古紙等資源回収量

- ・ 使用済 OA 用紙の裏紙利用・両面コピーの利用。
- ・ 無駄な印刷をなくす、控える。
- ・ 機密書類の取扱いの厳格化

	取組内容	結果と評価	次年度の予定
1	全員が無駄な印刷をなくし、裏紙利用に取り組む	全員で取り組んだ。	継続して取り組む

- 2025年度は、各プロジェクト内で使用するコピー用紙等の各種資源利用について、環境負荷軽減に向けた取り組みの余地を社内全体で検討する。

(4) 環境保全活動

- ・ 使用済OA用紙の裏紙利用・両面コピーの利用。
- ・ 無駄な印刷をなくす、控える。
- ・ 機密書類の取扱いの厳格化

	取組内容	結果と評価	次年度の予定
1	全員が無駄な印刷をなくし、裏紙利用に取り組む	全員で取り組んだ。	継続して取り組む

- 2025年度は、各プロジェクト内で使用するコピー用紙等の各種資源利用について、環境負荷軽減に向けた取り組みの余地を社内全体で検討する。

(5) 事務用品の積極的なグリーン購入

- ・ グリーン購入品目の確認。
- ・ グリーン購入を優先選択すべき品目の確認。
- ・ 環境負荷の少ない商品の購入の推奨。

	取組内容	結果と評価	次年度の予定
1	全員でグリーン購入が可能な品目に関しては、品目の確認を行い、優先してグリーン購入を選択する。	オフィスペーパーにおいては、業務上で紙が指定されている印刷物以外は再生紙を利用しており、購入率はほぼ 100%となった。	継続して取り組む

(6) 防災への取り組み

- ・ 防災備蓄品の見直しと追加購入、社員連絡網の確認を実施した。
- ・ 防災関係の業務を通じて得られた防災訓練等のノウハウを活用し、防災訓練を実施する。

(7) 社内美化・グリーン化の推進

- ・ 共有スペースで3S活動(整理・整頓・掃除)に取り組む。
- ・ 毎週月曜の朝礼前の10分間に、全従業員で一斉清掃を実施。
- ・ 観葉植物を再生し、社内のグリーン化推進

	取組内容	結果と評価	次年度の予定
1.	不要な資料、資材の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内の資料や資材の整理を行い、過去開催した業務の報告書等の余部や、本棚の不要な資料、資材を廃棄した。 ・ 結果として一般廃棄物排出量および古紙排出量が基準年より大幅に増加したが、不要なものを処分することができ、スペースの有効活用および作業の効率化につなげることができた。 	引き続き整頓を心がける
2.	社内のレイアウトの改装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的にリモート勤務で対応する出勤体制とした。9割はリモート席を配置することにした。 ・ 不要な資料等の整理に伴う資料の大量廃棄があった。 	資料整理は引き続き取り組む。

(8) 環境保全に係る事業の受託・実施

- ・ 環境関連事業の受託(環境経営、3R等に関わる事業の受託を行う。)

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果 及び違反・訴訟等の有無

- ・ 適用される主な環境関連法規は以下の通りであり、遵守評価の結果、これらの違反はありません。
- ・ 関係当局からの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

適用環境関連法規等	適用される事項 (事業活動、施設、物質等)	遵守状況の確認・評価
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	可燃ごみ・不燃ごみ(廃プラ等)・資源(古紙等)に分別する	廃棄物処理業者に委託し、収集運搬および処分する
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産廃として扱う鉄くず・廃プラを適正に排出し、産業廃棄物の運搬、処分の委託を行う。	
グリーン購入法	環境配慮商品の購入	環境配慮商品の購入を選択する
家電リサイクル法 (特定家庭用機器再商品化法)	テレビ・冷蔵庫等	廃棄時に対応する
小型家電リサイクル法	パソコン・デジカメ等	

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

- CO2 :基準年と同程度の結果となった。(1.03 倍)
- 一般廃棄物量 :基準年をやや上回る結果となった。(1.32 倍)
- 古紙等資源回収排出量 :基準年と同程度の結果となった。(1.10 倍)
- 環境保全等に係る事業の運営・実施 :基準年をやや下回る結果となった。(0.83 倍)

全体として、基準年を上回る結果となったが、業務量・売り上げと増加するなかで、社員が無駄をなくす意識をもって取組めた。

2025年4～6月は、レイアウト変更による一般廃棄物量、古紙等資源回収排出量が増加したことが原因のため、2025年度は目標を達成できるように取組みを進めたい。

エコアクション21の取組みは10年以上継続しており、5回目の更新審査となった。基本的な取組み方針は変わらぬものの、社員の入退社があったり、環境自体の関心やアプローチ方法変わっており、外部環境は変化し続けている。今回の体制変更を機に、社内廃棄物の組成調査を実施したり、事業の無駄をなくすことを目指して、基礎となる数値の取得に努めたい。

以上